

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6 年 月 日

事業所名 多機能型事業所ミルキーウェイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	法令に厳守したスペースの確保をしている。利用児や職員の数に応じて、空いているスペースを利用するなどスペースの確保をしている。	日によって利用児、職員の数で狭く感じることがある為、スペースの固定はせずに柔軟に対応している。
	2	職員の配置数は適切である	4	0	支援時に人数が足りない部署をお互いにフォローしている。	配置基準を満たしているが、支援において人手不足を感じることもある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	共有ノートを用いて情報の共有が出来ている。	基本的にバリアフリーの配慮をしているが、一部建築物の構造上で問題があり、支援に支障が出ないように努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	日常的に、使用しているタオルやお手拭きなどは毎日洗濯し乾燥機にかけ、手指や床、棚などの消毒を行う等衛生面に注意している。	毎日清掃を行っているが、毎日実施できない箇所もあり、その点の衛生面に懸念がある為、別の日に時間を設けて行っている。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	0	必要時に会議の時間を設けるなどして、話し合いを行っている。	日々の支援の中で目標を常に考えて支援に臨むことが難しいこともあり、振り返りの時間を設けていくよう努めている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	年に1度、保護者アンケートを実施し、業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2	自己評価結果を当社ホームページにて公開を行っている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2		外部評価は実施されていない。 必要に応じ、実施を検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		定期的に研修を実施しており、資質向上に努めている。	
適切 な 支 援 の 実 施	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			アセスメントを実施して計画作成を行っているが、現状の聞き取りに不足があり計画とのズレが生じてしまった為今後は改善を図っていく
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		児童発達支援ガイドラインに沿って、支援に必要な項目を選択し、話し合いの中で支援内容の設定を行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		計画書に沿って支援を行っており、変化がある場合には共有・評価し支援をしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		保育士を中心に、職員それぞれが考えた活動を集約し、療育活動の計画を立てている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		制作や運動など色々な活動が行えるよう、職員がそれぞれアイディアを出し合い、月毎に計画作成を担当する部署をローテーションしている。	

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	6		利用児の状況に応じて、個別・集団活動の組み合わせを行い、計画作成を行っている。		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		支援開始前には難しい為、朝礼で担当の確認や情報共有を行っている。また必要時に時間を設け、確認を行っている。		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		共有や確認が必要な事項などは、全体LINEや部署毎のLINEを用いて、情報の共有を行っている。		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		日々の記録は療育支援システムのサービス提供書に記録している。共有事項などは伝達ノートを使用している。		
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的を実施し、必要に応じて計画の見直しを行っている。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児童発達支援管理責任者をはじめ、支援担当者が参加している。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		関係機関との情報共有や相談、報告を行い、適切な支援を行えるように努めている。		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6			医療的ケアが必要な児に関しては主治医へ医師指示書を記載していただき、それに沿って医療的ケアを実施している。 体制的に不十分な点もある為、改善を図っていく。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6			医療的ケアが必要な児に関しては主治医へ医師指示書を記載していただき、それに沿って医療的ケアを実施している。 体制的に不十分な点もある為、改善を図っていく。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		保育園に通園している児の緊急時の対応方法やご利用児の様子について情報共有を行い、安全な支援が行えるよう努めた。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		移行支援会議には児童発達支援管理責任者を中心に担当職員が参加している。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		他事業所にリハビリの見学に行き、方法や注意点などのアドバイスをもらっている。		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		新型コロナウイルス流行後から積極的に実施できていない為、機会があれば交流を企画していきたい。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2		児童発達支援管理責任者を中心に地域で開催される「子ども部会」に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			成長療育支援システムHUGを用いて保護者との情報共有が出来ている。 HUGにて保護者との情報共有は出来ているが、直接話す機会が少ない方もいるため、機会を設けていきたい。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3		送迎時などに相談があった際には、職員間で話し合いを設け返答を行っている。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	契約時に丁寧に説明を行っている。利用予約の際に支給量を超えそうな場合は、お声掛けを行い調整をお願いしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		発達支援、家族支援、地域支援に分け作成し、半年に1度の支援計画会議にて個別支援計画を提示し同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		保護者からの相談に対して、職員で話し合いを設け、支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	事業所にて保護者を含め納涼祭を実施したが、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、保護者会は実施できていない。 相談があった際には、職員配置や車両等を含め安全に受け入れが可能か判断し、可能な範囲で利用をお受けしている。また相談があった際には迅速に対応できるように配慮している。	今後は感染対策を行い、機会を設けていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		HUGにて保護者との情報共有をしている。	全体的な周知が出来ていないこともある為、公式LINEを活用し、全体への発信を行ってきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	利用児の情報が記載されている物は書庫で管理し、破棄する場合には機密書類として情報漏洩に配慮している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		意思疎通に関しては、伝わりやすいよう方法の模索をし、声掛けを行っている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		納涼祭を開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域を招待することはできていない。感染症対策に努め、機会を設けていきたい。	
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2		
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		委員会の設置を行い、活動としてそれぞれマニュアルの策定を行っている。	感染委員からの指導を行ったりしているが、実際に訓練が出来ていない物もある為、計画を立てて実施していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		委員会でマニュアル、避難マップの作成を行っている。また定期的に避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		毎朝、朝礼時にてんかん発作などがある利用児を看護師から確認があり、各自緊急時対応のファイルを確認し支援に入っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		主治医からの指示書に記載されている内容を各自確認し、支援に臨んでいる。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット作成後、朝礼やスマホアプリBANDを用いて、情報共有を行っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待防止・身体拘束委員会を中心に、年2回研修を行っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		個別支援計画書に身体拘束について記載し、保護者より同意を得ている。やむを得ず身体拘束を行った場合には、身体拘束記録に記入している。		